

令和4年1月19日付【環境新聞】
〈脱炭素社会に貢献する下水道の推進〉
資源やエネルギーの回収拠点として

脱炭素社会に貢献する下水道の推進

資源やエネルギーの回収拠点として

全国上下水道
コンサルタント協会 会長 村上 雅亮



新年おめでとうございます。新型コロナウイルスに関しては委員株の発生など予断が許されない状況が続いています。一日も早い終息と経済の回復を願っております。

昨年のCOP26で世界の平均気温の上昇を1.5℃以内とすることが合意されました。ポストコロナの世界の最重要課題の一つが脱炭素社会への移行です。

世界の平均気温の上昇を1.5℃以内に抑えるには2030年度の温暖化ガス排出量を10年度比で45%減する必要があります。これに対しCOP26での各国の排出量の計画値は13・7%の増加となり、排出削減の目標達成は極めて厳しい状況です。あらゆる産業で温暖化ガスの排出削減が必要です。

が、公共事業の中でも排出量が多く対策ポテンシャルの高い下水道がその筆頭にあると考えます。

下水道事業が温暖化ガスの排出削減に取り組む意義については①下水道事業による排出量は600万tCO₂/年（日本全体の0.5%）と多いこと②下水の有機物が有するエネルギーは1・1kWh/時/立方メートル程度であるのに対して、下水処理に要するエネルギーは0.5kWh/時/立方メートル程度であり、エネルギーポジティブであり、エネルギー・再エネなどの既存技術の適用余地が多いこと③地域バイオマスを受け入れるなど地域との連携効果が期待できること④処理場でのエネルギー自給は災害時対応の面でも有利になることなどがあげられます。

海外では多くの下水処理場でエネルギー自給率向上の取り組みが進められています。下水処理場は汚水の処理だけでなく、水を含めた資源やエネルギーを回収利用するインフラとしても考えられるようになっていきます。日本の下水道技術の国際競争力という点から

も、下水処理場での資源やエネルギーの回収が重要になっていきます。下水道事業が温暖化ガスの排出削減とつながることであり、その重要課題の一つが温暖化ガスの排出削減とつながることです。一朝一夕にはできませんが、脱炭素社会に貢献する下水道という目標を明確にして、計画的な整備と転換を図っていくことが重要と考えます。

グリーンリカバリーと言われるように、脱炭素社会に向けた下水道事業の取り組みが下水道の技術開発を促進し、地域や地球に対する貢献度を高め、下水道産業を魅力あるものにしていくと考えます。

水コン協では「上下水道サービスの担い手としての挑戦」をスロガンに掲げて、「水コン協ヒジキン2015〜2025」に取り組みんでいます。人口減少、施設老

朽化、災害激化、デジタル化、脱炭素化など事業課題は山積しています。コンサルタントには、上下水道の担い手としての意識と積極的な対応が求められます。社会から期待されるコンサルタントの存在意義を自覚し使命を果たしていきたいと思えます。

本年も、よろしくお願ひ申し上げます。